

こんにちは

日本共産党市会議員

<議会報告>

玉本なるみ

です

連絡先 日本共産党京都北地区委員会

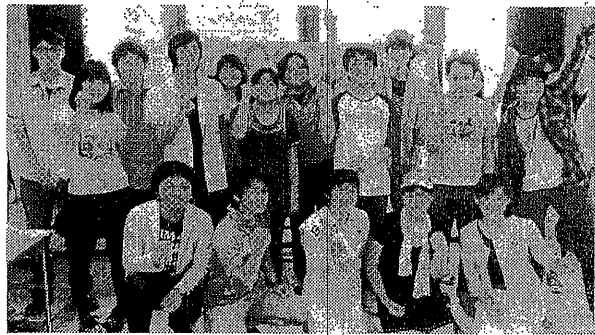
☎ 432-3261

2013年6月②号



北上青年のつどい 切実な青年の声・声・声

北区上京区で活動する青年が倉林さんに「青年の声を聞いてほしい!」と集いが開催され、倉林明子予定候補と一緒に参加しました。「大学卒業し、国家資格も取って福祉施設に勤めているけど、年収は200万円以下のワーキングプワ状況」「正社員でなく、契約社員。10月から奨学金を3万5千円の返済が始まる。文化的な活動をする余裕がない」「僕も、600万円の奨学金をコツコツ返している」「自民党は票も増やしていないのに、なぜ、政権を取れたのか?」など、実態や質問が出され、倉林予定候補が丁寧に返答し、その声を国会に届けて頑張りたいと決意を語りました。参加した青年からは「元気で、やる気を感じた。身近に話できて、うれしかった」など感想が寄せられました。



下段右から玉本市議、中央が倉林明子参議院予定候補

違いははっきり!参議院の予定候補者などの座談会で朝日新聞の討論会(6月15日)で、自民や民主の方から驚愕の発言があり、日本共産党の倉林さんとの違いがはっきりしました。とりわけ、憲法や平和の考え方の違いです。一部を紹介します。

<驚愕(きょうがく)発言>

その1、西田氏(自民):私は「憲法無効論者」。憲法の枠の外に答えがある。

その2、北神氏(民主):「国のために死ぬという愛国心をどう教育するかが非常に重要だ」

その3、山内氏(維新):米国の「あてがいぶち」の現行憲法は変えるべき96条改正に賛成

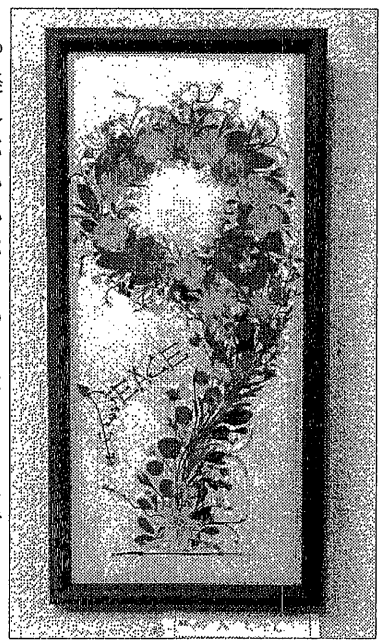
<倉林明子さん(共産)>

憲法が時代にそぐわなくなったのではなく、憲法や9条が生かされる状況を作っていく必要がある。

つばやき

ギャラリーかもがわで開催された『女性美術展』に行ってきました。素敵な絵や作品がたくさん出展されました。でも、お買い上げの赤色のシールがあまり貼られてなかったので、ギャラリーの方とお話していると、やはり、お財布の紐がかなり固くなっているとのことでした。

写真は目に止まった押し花の九条の作品です。



粘り強い活動

毎週金曜日の17時~19時まで、京都駅前の関電前で実施されているキンカン行動に、久々に参加しました。

楽器やプラカード、傘など、工夫をしてアピールされています。

左端が玉本なるみ市議



「十年後、どうなっていたい?」

アンテナ



高3の長男の保護者会の講演会で、立命館大学の春日井敏之教授のお話でした。以前にもいじめをテーマにしたシンポジウムでお話を聞いたことがあり、2回目でしたが、子どもの立場、目線に立って考えるお話は心に響くものがありました。子どもとぶつかってもいい。でも言いすぎたなと思ったら、後で謝りたい。ただ、やっぱり子どもの存在を否定するような事は言っちゃいけない。大人になっても、人間は評価してほしいし、褒めてもらいたい。僕はもうすぐ60歳になるけど、家に帰ったら、奥さんに「僕、頑張っているやろ」って言って、「よしよし、よく頑張ってるね」と頭をなでて褒めてもらおうと話され、びっくりしました。印象に残ったのが、表題にある「十年後、どうなっていたい?」と話をするといいというアドバイス。子どもは親の自慢話ではなく、親の思春期の失敗談を聞きたい。「おかさんやおとも、そうやったんやな」と思うと楽になると。いろいろ聞いても、子どもはよく「べつに...」と言います。それは、「今はそっとしといて」ということだそうなんです。「世界中が敵になっても、あなたの味方やで」と言っても、あなたの味方やで。実践したお母さんの子どもの反応は、「世界中が敵になるような事にはなりたいくないわ」確かに...